

食品の放射能測定検査体制について

株式会社 いちい(本社：福島県福島市 社長 伊藤信弘)^{注1}は 東日本大震災に伴う東京電力福島第1原子力発電所事故以降、放射線の食品に関する影響について、消費者の視点に立って対策を検討し取り組んでまいりました。そして、このたび、専門家の協力を得て放射線検査体制を構築し、生鮮食品をサンプル検査し、食品衛生法上の基準値をクリアーしていることを確認して出荷するシステムをスタートさせました。

当検査体制の整備には、福島大学東日本大震災総合支援プロジェクト「県産農産物の円滑な流通を確保するための安全性保証システムの構築」(代表；小沢教授、西川教授)^{注2}に参加して、安全性確保のための方策について情報交換を行いながら、その安全確保のための体制づくりおよびそのデータ評価の適切性の検証を行っています。

当社といたしましては、放射線セシウム(134Cs, 137Cs)の影響により、野菜、果物、肉、穀物など福島県民の食の安全に対する不安が増大するなかで、福島県の企業として、福島県民のため、少しでもその食に対する不安を除くために、全力で食の安心、安全に対して最大の努力を継続いたします。

検査に使用する機器は 世界最大の放射線機器メーカー、Mirion Technologies社の国内総代理店であるテクノヒル株式会社(本社：東京都中央区)^{注3}が機器の選択およびシステムの測定に関する技術支援を行っております。

食品検査場所： 福島市さくら1丁目2番地の1 株式会社 いちい 本社内

検査対象： 食品 (野菜、果物、肉、穀物類等)

現在は

- ① 各生産者ごとの抜き取り検査を行いデータの蓄積検証
- ② 契約農家様のご理解を頂きつつ数字公表へ向けての取り組みを行っている

将来は全量検査体制の構築を目指す

検査機器： 微量放射能測定装置 FNF-401 (製造メーカー 応用光研工業株式会社)

NaI(Tl)シンチレーション検出器

測定限界 10Bq/kg以下 (実績 6Bq/kg)

シンチレーションサーベイメータ PDS-100G

(製造メーカー：Mirion Technologies社フランス、代理店テクノヒル(株))

注1: 株式会社 いちい HP: <http://www.ichii-yume.co.jp>

注2: 福島大学 HP: <http://www.fukushima-u.ac.jp>

注3: テクノヒル株式会社 HP: <http://www.technohill.co.jp>

世界最大の放射線測定機器メーカー Mirion Technologies社の国内総代理店。

個人線量計など 原子力安全保安院へ寄贈、サーベイメーターは福島県内に寄贈など

福島中心に支援を継続中。(本社東京中央区 鈴木一行社長)